

# 令和4年度 役員選挙公報

## 理事選挙について

定数 11名  
立候補者 11名

立候補者が定数のため公益社団法人滋賀県理学療法士会選挙規定により、理事においては無投票当選となります。なお、理事のうち1名を会長、会長以外の3名を副会長とする。会長及び副会長は、理事会の決議によって理事の中から選任する。

## 監事選挙について

定数 2名  
立候補者 0名

立候補者が0名のため公益社団法人滋賀県理学療法士会選挙規定により、監事においては理事会より推薦となります。

令和4年4月

公益社団法人滋賀県理学療法士会  
選挙管理委員会

## 理事候補 立候補者11名

### 理事候補 1

#### 宇於崎 孝(びわこリハビリテーション専門職大学)

##### 主旨

近年、日本の理学療法士数も急激に増加し滋賀県においても年々新人の数が増加しています。さらに、長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、医療や介護の現場で働く理学療法士を取り巻く環境が大きく変わり、今後ますます理学療法士としての質が問われる時代になると思います。

私は理事を14年務め、主に学会や研修事業など学術関係や国民スポーツ大会への支援について行ってきました。滋賀県での国民スポーツ大会・障がい者スポーツ大会まで3年となり、理学療法士のスポーツ現場での活動をさらに活性化する必要があります。また今後は、専門分野ごとの研修会の充実をさらに進め、士会員の登録理学療法士取得への教育プログラムのブロックごとの開催や、専門、認定理学療法士の取得率の向上を実現したいと思います。そして、県民の健康の維持、回復のために微力ながら努力させていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

### 理事候補 2

#### 久保 貴弘(医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院)

##### 主旨

この度、理事に立候補致します甲西リハビリ病院の久保貴弘です。現在学術局と学術誌部、また甲賀ブロック担当理事として活動させていただいております。

新型コロナウイルス感染症拡大により、沢山の不自由や困難が生じました。しかし困難な状況でありながら、新しい生活様式が生まれ、仕事の在り方、事業実施の方法等も大きく様変わりました。

このことは決して困難な事ばかりではなく、発想を転換する事で困難な状況でも新しくできる事がある事を経験しました。

その背景には会員皆様からのお声やご支援があったからこそであり、その声をこれからの士会運営に活かしていきたいと感じております。

この経験を活かし、新しい発想で、新しい時代に必要とされることを創造しながら、新しい時代に合わせた滋賀県理学療法士会の運営を皆様とともに一步一步前に進めていきたいと考えております。

何卒宜しくお願いいたします。

### 理事候補 3

#### 柴田 健治(大津赤十字病院)

##### 主旨

私は、現在副会長として主に事務局を担当しています。事務局機能は、年々複雑化してきており、公益法人としても透明性のある運用が求められています。会員にも、他団体に向けても、より分かりやすい活動を継続していきたいと思っています。

また、士会事務局として全力で取り組んでいきたい課題としては、ブロック化の推進です。今年度は、皆様のご協力のもと、2回の施設代表者会議を開催することができました。これは、当士会にとって画期的な一歩であったと思っています。ご参加いただいた代表者の皆様からは、ブロックでの顔の見える横の繋がりの推進を求める声を数多く頂いています。次年度からは、このネットワークを生かして会員の皆様にきめ細かな活動がいきわたるようにブロック活動を広げていきたいと考えています。

どうぞ、よろしくお願い致します。

#### 理事候補 4

### 平岩 康之(滋賀医科大学医学附属病院)

#### 主旨

私は、代表理事(会長)を務め、公益法人としての体裁を整えることに努力してまいりました。しかしながら、会員の皆様のお役に立っている土会であるか否か、自問自答しております。今後は、原点に立ち戻り、公益法人であることの是非の検討、適正な会費額の検討、事業の見直しなどを行い、会員の皆様にとって絶対必要な職能団体を目指していきたいと思っております。微力ですが、土会運営に尽力したいと思ひ、理事に立候補いたします。

#### 理事候補 5

### 森 美穂(琵琶湖大橋病院)

#### 主旨

この度、2期目の理事選挙に立候補した森美穂です。この2年間公益事業部の担当理事という役割を頂きました。また地域リハビリテーション支援事業を推し進めていく滋賀県POS連絡協議会コアメンバーとして活動して参りました。いま国が推し進める地域共生社会の実現に向け、リハ職に求められる役割を知り、行政や地域と協働していくことが重要になっています。超高齢社会を乗り切るために行政からのリハビリ職への期待は高まっており、その期待に応えられる人材育成が急務となっています。誰もが住み慣れた場所で安心して暮らしていけるまちづくりに貢献できるよう、皆さんとともに頑張っていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 理事候補 6

### 石井 隆(かさほら医院)

#### 主旨

団塊の世代が後期高齢者となる2025年まで3年となり、本格的な高齢化社会が目の前まで迫っています。2035年には、後期高齢者も減少傾向となり、少子化・高齢化が複合的に同時進行する世界で唯一の国と言われているとされています。一方、理学療法士資格を取得する学生は毎年1万人ほど学校を卒業してまいります。増える理学療法士と減る人口、供給が需要を上回る事は容易に想像できます。入院・入所期間が短縮し、今後は外来・通所・訪問等の理学療法がメインとなり、我々の働く場所は大きく転換していくことになります。今、30歳で働いている方は43歳となる働き盛りになりますが、今と同じ待遇・就労環境と考えて良いのでしょうか。皆さんと一緒に今後の課題について考え、行動してまいりましょう。

#### 理事候補 7

### 川崎 浩子(びわこリハビリテーション専門職大学)

#### 主旨

理学療法士の質の低下が指摘される中、日本理学療法士協会は、これまでの新人教育プログラムを抜本的に改めることにしました。そして、全会員を対象にした5年間のカリキュラムを作り、組織的に一定水準のジェネラリスト(登録理学療法士)を育て、社会的地位を回復させる方針を立てました。

2022年4月、「新生涯学習制度」として開始されます。今回は、大きな改革ゆえ、スムーズに新制度へ移行するためには、会員に対して手厚いサポートが必要となります。私は、これまでの在任期間の中で、生涯学習管理と新人研修会の企画および運営を担当してまいりました。特に、この1年間は、新制度開始について会員に向けて情報発信をしてまいりました。同時に、滋賀県土会では、新生涯学習制度ではカギとなるブロック活動が始動し、着々と準備が進んでいます。

私は、引き続き、この業務に取り組み、会員の窓口として、関係各所とのパイプ役となり、新生涯学習制度を開始できるように尽力いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

理事候補 8

**堀口 幸二(堤整形外科)**

主旨

現在、理学療法士の関わりは多方面となってきており、各分野へと多岐にわたっている。予防分野、介護分野、スポーツ分野などに関わる理学療法士は年々増加しつつある。スポーツに例えると病院での理学療法、スポーツ現場でのトレーニング、予防対策というように実施する場所も医療機関にとどまっていないのが現状である。そのような現場で理学療法士がより良いものを提供できるようなシステム構築が重要である。

私は高校野球に30年以上関わっていますが、中学、小学生への障害予防への取り組みが重要と考え、今後は滋賀県内で理学療法士が活躍できる場を提供できるように邁進していきたいと思えます。

また、様々な分野で働く理学療法士が、仕事に対してやりがいを持ち続けることができるような環境、整備が必要と考えています。公益財団法人滋賀県理学療法士会理事としての役割と責任を持って活動していきたいと思えます。

理事候補 9

**森 智子(市立野洲病院)**

主旨

理事に任命していただき早4年がたとうとしています。正直、初めのころはわけもわからず、ただ座っている事しかできなかったのですが、1期目を終わるころより、士会事業の流れや位置づけが少しずつわかるようになり、微力ではありますが具体的に事業の計画と実施が出来るようになってきたと感じています。自身としては、地域包括ケア推進部から滋賀県POS連絡協議会の活動への事業拡大を主として行ってきました。滋賀県POS連絡協議会の活動では、リハビリテーション相談窓口事業、人材育成事業を通じて地域包括ケアシステムの構築の中でセラピストの活躍の場や成長の場を皆さんと考えてきました。また昨年度より災害対策部の部長と理事を兼任させていただくことになりました。しかし、コロナ禍のなか、現状把握や事業内容の理解が不十分なことで、満足のいく結果になっていません。もし、次期理事に再任した時には、災害対策部の活動の充実化(研修会の実施、JRAT組織化への支援、災害対策についてのブロック化等)も進めていきたいと、考えています。

どうぞ、よろしく願いいたします。

理事候補 10

**吉田 環(公益財団法人 豊郷病院)**

主旨

理事を3期務めさせていただき今思っていることは、新型コロナによる日本経済景気の低迷、医療の逼迫が起こっている情勢の中、理学療法士会の世界では新生涯学習制度が新しくなり理学療法士もいろんな意味で意識改革をしなければならない時期(分岐点)だと考えております。

滋賀県理学療法士会ではブロック化を進めており、それを軌道に乗せることも喫緊の課題となっております。

またほかの側面では他のメディカルスタッフの給料が上がっているのに対しリハビリ職の給料は据え置き……。

今回このような情勢の中、参議院選挙の年でもあり我々は「頑張らないといけない年」だと考えており、微力ながら会員の皆様の力になればと考え立候補させていただきます。

理事候補 11

**川島 直之(リハビリデイサービスひまわり)**

主旨

私は、令和2年より理事を務めており、介護報酬部、広報部を担当しております。また、ブロックでは湖西ブロックを担当しております。2年の歳月が過ぎましたが、コロナ禍で活動も積極的にできず、まだまだ他の先生方を見本に手探りで取り組んでいる状況です。ゆえに、まだ士会に貢献できていないのではないかと感じており今期も立候補させて頂きました。

士会では、ブロック化活動が動き出す中、私の担当する湖西ブロックは少人数ゆえに、他ブロックと比べると、活動的ではなく若い会員の力を士会に向けられていないかもしれません。しかし、少ない人数だからこそできる事もあり、一致団結して、湖西ブロックとともに、士会を盛り上げていければと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

**監事候補 立候補者0名 理事会推薦者2名**

理事会推薦 1

**前川 昭次 (淡海医療センター)**

理事会推薦 2

**弘部 重信 (びわこリハビリテーション専門職大学)**

令和4年度役員選挙公報

令和4年4月

公益社団法人滋賀県理学療法士会  
選挙管理委員長 小澤和義